

# 平成 25 年度 事業報告書

# 目次

<b>I 事業総括</b>	1
<b>II 事業報告</b>	
1 調査啓発事業	3
2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業	5
3 資源化事業	7
(1) 剪定枝等処理事業	7
(2) びん・缶・ペットボトル選別事業	9
(3) 施設管理受託事業	11
① ごみ資源化工場ほか施設管理事業	11
② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業	15
③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業	17
④ 札幌市リサイクル団地管理事業	19
(4) 大型ごみ収集センター管理運営事業	21
4 事業系ごみ収集運搬事業	23

# I 事業総括

当社は、調査啓発事業、資源化事業、事業系ごみ収集運搬事業等の10の事業を実施している。

平成25年度は、新たに、篠路破碎工場の管理業務を札幌市から受託し、従来から管理業務を行っている篠路ごみ資源化工場と併せて総合的な管理運営を開始した。

札幌市の収集するごみ量は、平成24年度に対し1.6%増加し、当社が札幌市から受託している事業や施設でもごみ量の増加があったが、当初計画に従って適切に運営を行い、中沼プラスチック選別センター、中沼雑がみ選別センターにおいては、無事故無災害1000日を達成した。

事業系ごみ収集運搬事業では、4月から収集料金の値上げを実施したことなどから収集量の減少が見込まれていたが、ほぼ前年度並みの収集量となった。

これらにより、平成25年度は、前年度実績及び当初予算に比べ増収増益となった。

しかし、長期的なごみ量の減少や比重の増加による経費増加などに対応していくため、引き続き事業系ごみ収集運搬事業の効率化が必要となっている。

このため、資源化ごみ収集車両の減車を行うとともに、昨年7月からは、収集に行ってもごみが出ていない「空振り」現場の解消を中心とした効率化を進めている。

引き続き顧客満足度の向上に努めながら、事業の効率化を進めていくこととしている。

新たなリサイクルへの研究開発については、札幌市と連携したバイオコークス技術の調査研究や剪定枝チップの堆肥化等に取り組んでいる。

新法人制度に移行して2年が経過したが、引き続き、新しい会計基準による適正な経理処理、発注事務の見直しなどの事務事業の見直しと経費節減など、適正な事業執行に努めている。

## 重点項目の実施結果

### (1) 顧客満足度の向上の徹底

「変わらぬ基本、変えよう視点」を年間スローガンとして、顧客満足度の向上を目指して、CS活動に取り組んだ。

### (2) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化

収集量の減少していた資源化ごみ収集について、一部地域・曜日で2台の減車を実施した。引き続き、収集に行ってもごみが出ていない「空振り」の解消などの効率化を進めている。

### (3) 新たなリサイクルへの研究開発

近畿大学が開発したバイオコークス技術により、「枝・葉・草」「剪定枝」及び「資源化ごみ」等の有効利用を図るため、札幌市、近畿大学と共同研究協定を締結し、「枝・葉・草」の前処理試験、ソフトバイオコークスの製造試験、燃焼試験を行い処理上の課題抽出と整理を行った。

剪定枝チップの新たな有効利用方法を調査するために堆肥化実験を実施し、剪定枝チップの堆肥が施用上問題がないことを確認した。

(4) 事務・事業の見直し及び経費の節減

支出・事務処理の流れや必要書類等を一目で確認することが可能な「フロー図」及び「各種早見表」を作成するとともに契約規程の一部を改定し緊急事態時の修繕等に係る事務手続きを定め、事務処理の効率化と適正化を図った。

また、中沼資源選別センターにおいて「冬季通告調整契約」を北海道電力と締結し電力の節減に努めた。

(5) 顧客や市民への積極的な情報発信

平成25年10月に事業概要250部を発行し、顧客や関係機関に配布するとともに随時ホームページの改定を行い情報発信をした。

また、ごみ減量・リサイクルの啓発を目的に「環境広場さっぽろ2013」などのイベントに参加した。

(6) 環境マネジメントシステムの的確な運用

平成25年2月に北海道環境マネジメントシステムスタンダード（HES）の認証を取得し、平成26年3月に初めての定期審査を受けた。引き続き環境マネジメントシステムの的確な運用による環境負荷の低減に努めることとしている。

(7) 一般財団法人としての円滑で適正な業務執行

非営利型の一般財団法人への移行後、最初の決算及び北海道への公益目的支出計画実施報告書の提出が完了し、円滑に新制度に対応することができた。

## Ⅱ 事業報告

### 1 調査啓発事業 (決算額 53,131,638 円)

#### (1) 調査研究事業

##### ① ごみ重量計量システムの実証実験

平成23年度から重量計量システムを搭載した収集車両を導入して、計量精度の検証及び排出者毎のごみ重量等データの収集・蓄積を行っている。

平成25年度は、7台の車両による重量データ収集・蓄積の他、収集データを活用して排出事業者や業種ごとのごみ種及び高比重などの排出実態の分析を行った。

##### ② 資源選別センターの不燃残さ削減に関する調査研究

平成23年度に中沼資源選別センターで実施した「不燃残さ削減のための調査」結果と他都市の事例を参考にして、中沼・駒岡の両選別センターで、びん割れ防止を目的とした実証実験を実施した。その結果、平成25年度は、残さ搬出量が削減（中沼：前年比2.4%減、駒岡：7.1%減）し、びん類の搬出量は増加（中沼：前年比8.8%増、駒岡：8.3%増）となり、びん割れ防止対策の実施効果が確認出来た。

##### ③ 固形燃料（RDF）生産に関する調査研究

ごみの減量・リサイクルに伴い、ごみ資源化工場の木くずや紙くずの受入量が年々減少し、これに伴って固形燃料の生産量も漸減している。このため代替原料確保に関する調査研究を平成23年度から実施している。

平成25年度は、木くずの代替原料として「枝・葉・草」を約8%混合した固形燃料を約140t生産、北海道地域暖房棟のボイラー設備で燃焼試験を実施し、同設備での利用について問題がないことを確認した。

##### ④ バイオコークスに関する調査研究

札幌市内から排出される「枝・葉・草」及び「剪定枝」等の植物系バイオマスの有効利用を図るため、札幌市、近畿大学とバイオコークスの事業化に向けた共同研究を実施した。平成25年度はごみ資源化工場で、原料の前処理（破碎・乾燥・選別）試験を実施し、処理上の課題抽出と整理を行った。

また、「剪定枝」「刈草」「RDF原料（紙くず）」を原料としたバイオコークスの製造試験を実施し、いずれの原料でもバイオコークスの製造について問題が無いことを確認した。

##### ⑤ 剪定枝チップの堆肥化実験

剪定枝チップの有効利用と新たな販路の開拓を進めるため、平成24年度から剪定枝チップの堆肥化実験を公益財団法人札幌市公園緑化協会と共同で実施している。

平成25年度は、平成24年10月から約1年間かけて熟成させた堆肥の成分分析と発芽試験を実施し、剪定枝チップの堆肥は通常施用上問題が無いことを確認した。

また、前年に引き続き剪定枝チップを百合が原公園に搬入して、発酵状態の確認や水分測定など熟成状況の確認を行った。

(2) 普及啓発活動

ごみ減量及びリサイクル、公社の事業内容についてホームページや各種イベントにより普及・啓発を行った。

① 情報誌等の発行・ホームページ

i) 各リサイクル施設で実施する資源物等の組成調査、固形燃料の成分分析等及び調査研究結果を取りまとめた「平成24年度データ集」150部を平成26年3月に発行した。

ii) ホームページを適宜改定し、ごみの減量・資源物のリサイクル推進、廃棄物の収集運搬に係る情報などを発信した。

② 各種イベントへの参加

i) 環境ビジネスの発展や市民に対する環境意識の向上を目的としたイベント「環境広場さっぽろ2013」に出展し、公社事業の紹介を行った。

ii) 「ミニさっぽろ2013」「かんきょうみらいカップ2013」「第65回さっぽろ雪まつり」等のイベントに協賛した。

③ 見学者の施設案内

ごみの適正処理やリサイクルの普及活動として各施設への見学者を受け入れている。平成25年度は、市内の小学4年生で「ごみ・リサイクル」を学習するカリキュラムの見学者を含めて7,378名を受け入れた。

## 2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (決算額 53,089,800 円)

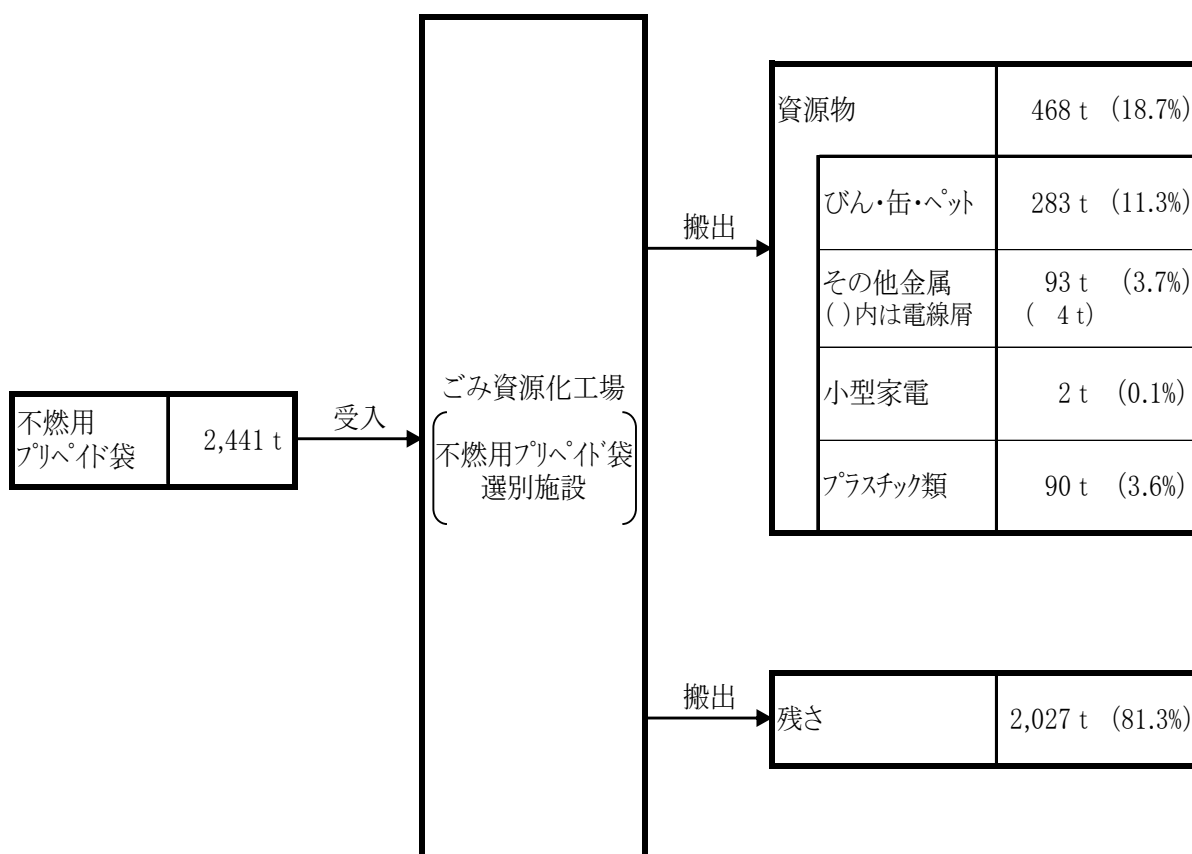
平成 21 年 4 月より、札幌市内の少量排出事業所から排出される不燃用プリペイド袋に混入しているびん・缶・ペットボトルなどを選別し、埋立量の低減及びリサイクルを推進している。

### (1) 処理実績

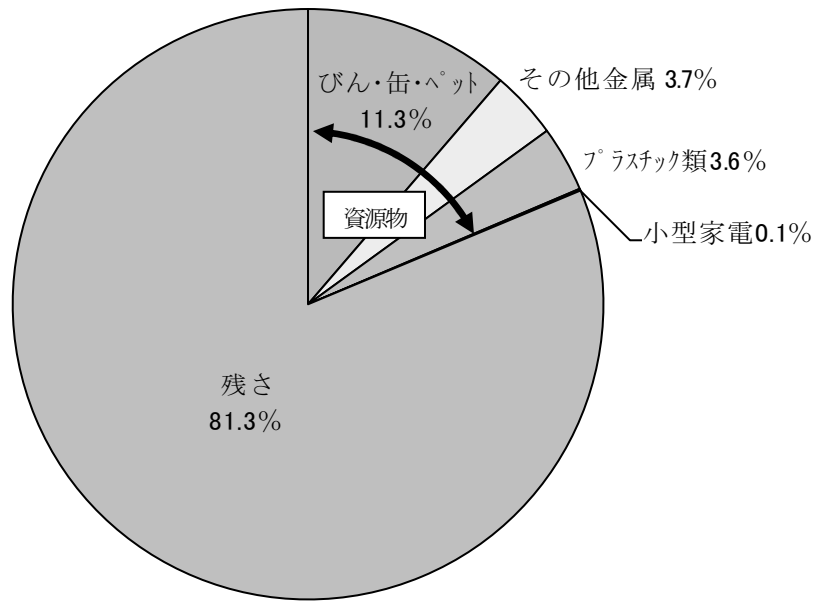
平成 25 年度の不燃用プリペイド袋受入量は、計画量 2,400t に対し 2,441 t で、前年度 2,404 t に比べ 1.5% の増加となった。搬出量は 2,495 t で、資源物 468 t が選別された。

不燃用プリペイド袋に混入しているびん・缶・ペットボトルは選別後、リサイクル業者に引き渡し、一斗缶等のその他金属は業者へ売却、ビニール類等の軟質系プラスチック類は固形燃料の原料として再資源化を図った。

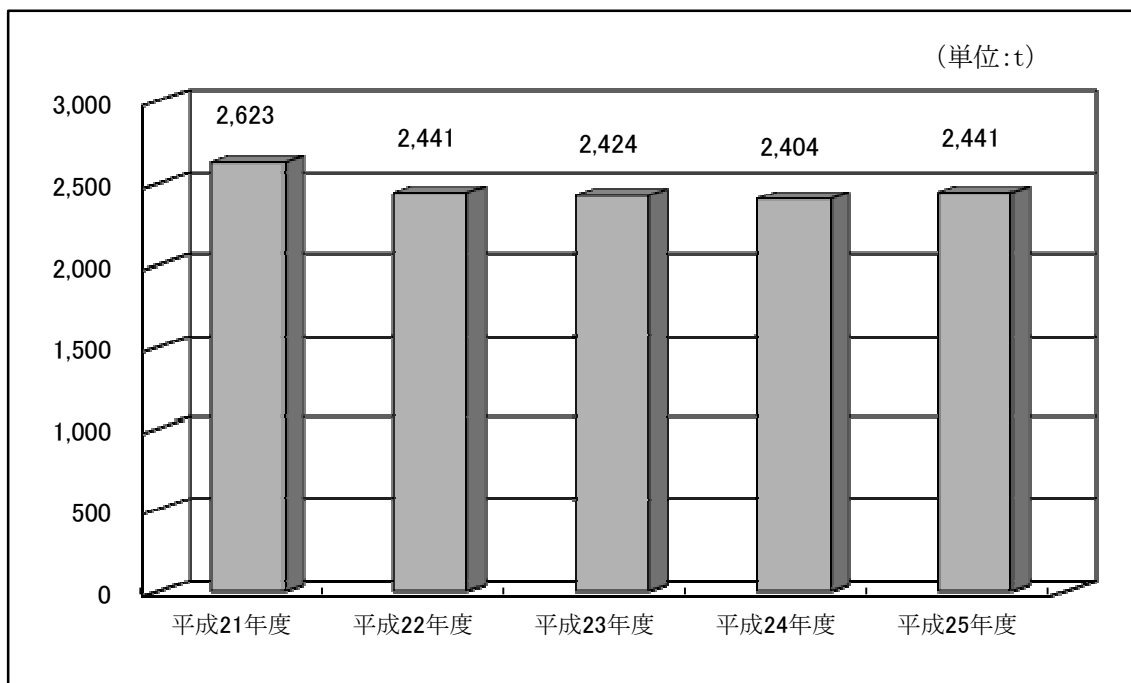
【図 2-1 平成 25 年度 不燃用プリペイド袋処理実績フロー図】



《グラフ 2-1 平成 25 年度 資源物・残さ搬出割合》



《グラフ 2-2 不燃用プリペイド袋受入量 (年度別)》





### 3 資源化事業 (決算額 1,088,831,956 円)

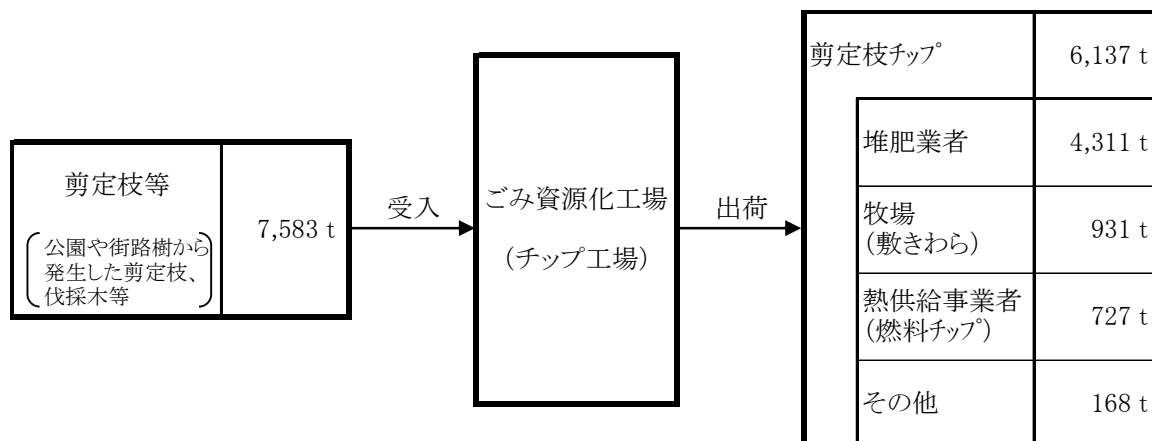
#### (1) 剪定枝等処理事業 (決算額 49,386,497 円)

平成20年10月から実施している当社の自主事業で、公園や街路樹等から発生した剪定枝、伐採木等を、チップ工場破碎施設で約45mmの大きさのチップに加工して、堆肥や畜舎の敷きわらなどとしてリサイクル業者及び酪農家に販売している。

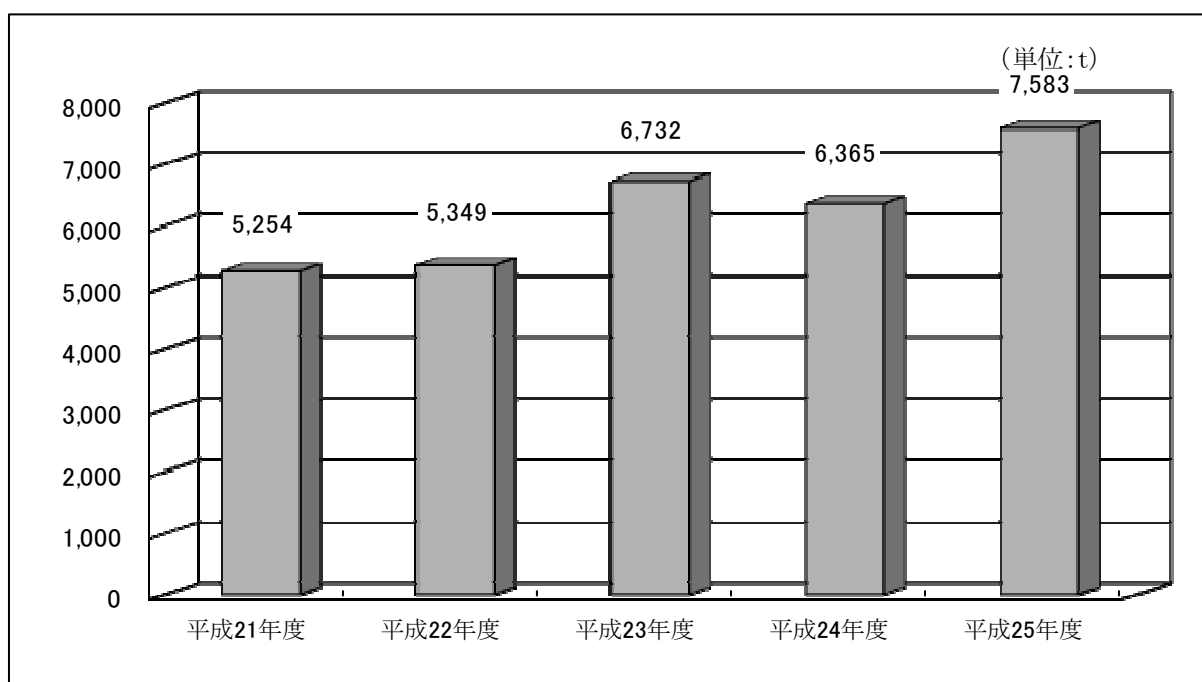
平成25年度の剪定枝等受入量は、計画量4,900tに対し7,583tで、前年度6,365tに比べ19.1%の増加となった。

剪定枝等チップの出荷量は、計画量4,700tに対し6,137tで、前年度5,658tに比べ8.5%の増加となっている。

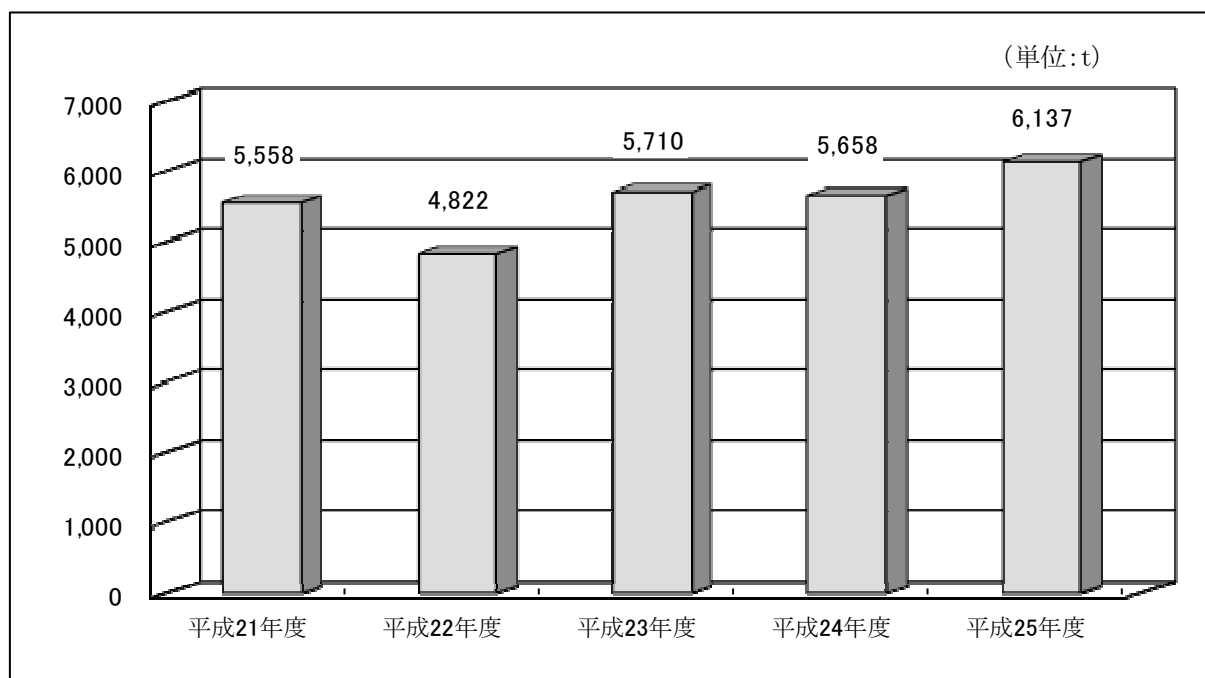
【図3-1 平成25年度 剪定枝等処理実績フロー図】



《グラフ 3-1 年度別剪定枝等受入量》



《グラフ 3-2 年度別チップ出荷量》



(2) びん・缶・ペットボトル選別事業 (決算額 884,857,311円)

平成25年度のびん・缶・ペットボトルの全体受入量は、計画量36,000tに対し36,616t(家庭系34,833t、事業系1,783t)であり、選別搬出された資源物は計画量24,604tに対し、びん類12,176t(白びん4,836t、茶びん4,037t、その他びん3,303t)、缶類6,786t(アルミ缶3,508t、スチール缶3,278t)、ペットボトル7,174tの合計26,136tであった。

平成25年度は4,226人の見学者を受け入れ、施設の見学及びリサイクルの情報提供を通して、びん・缶・ペットボトルのリサイクルの啓発を行った。

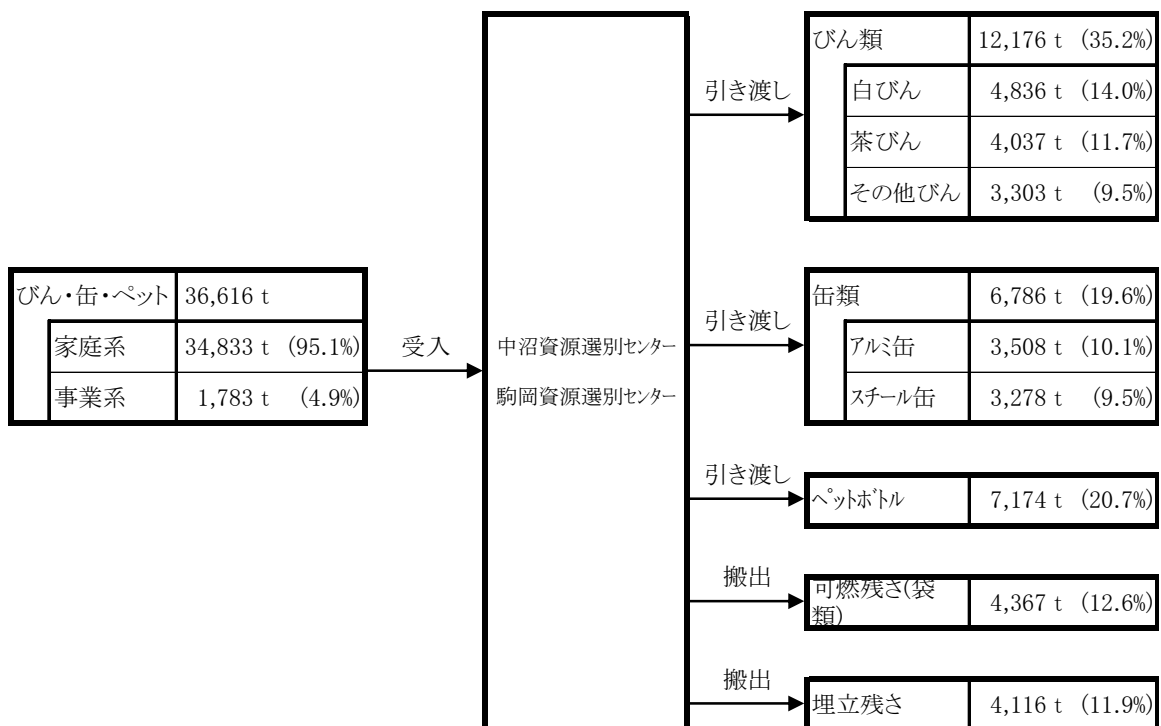
また、施設の老朽化に伴う整備については計画的に実施しており、平成25年度については、これら計画に基づき、中沼資源選別センターの計量コンピューターの整備や制御系シーケンサの交換等の整備を行ったほか、駒岡資源選別センターでは受入コンベア設備の整備を緊急に行った。

選別されたびん・缶・ペットボトルは、次のようにリサイクルを図った。

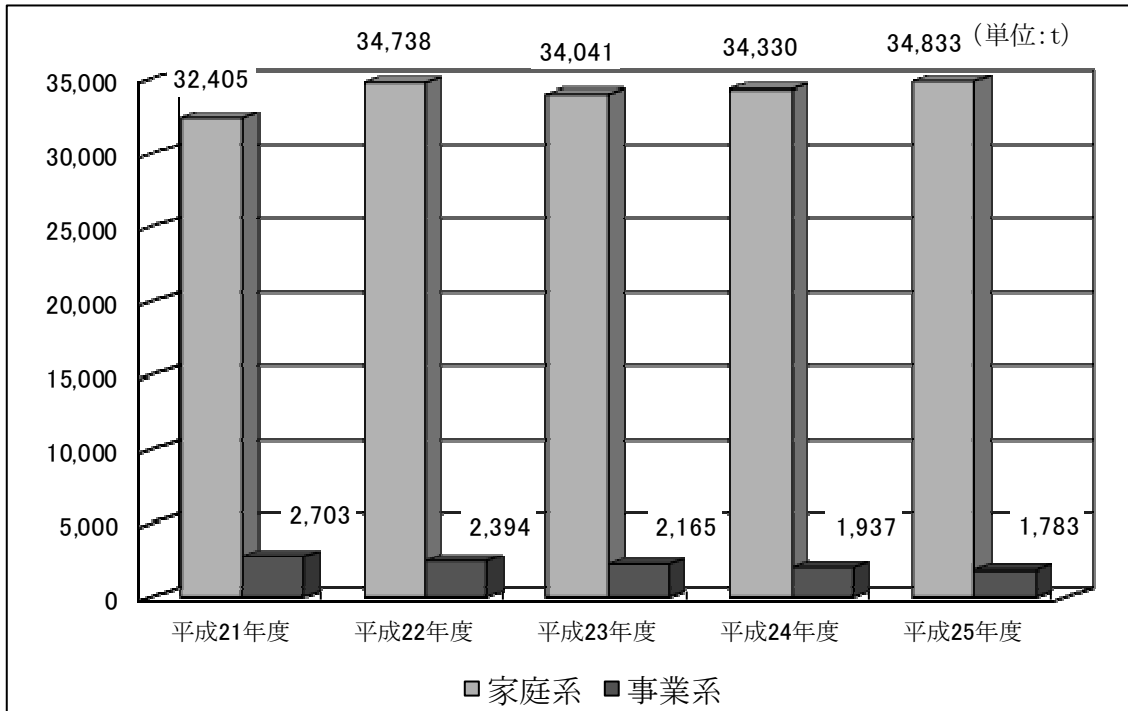
- ① びん類については、白・茶・その他びんに分け、家庭系(市)のものは指定法人ルートで、事業系(公社)のものは直接リサイクル事業者へ引き渡し、それぞれ再生利用を図った。
- ② 缶類については、家庭系(市)及び事業系(公社)ともに、リサイクル事業者へ引き渡し再生利用を図った。
- ③ ペットボトルについては、家庭系(市)のものは指定法人ルートで、事業系(公社)のものは直接リサイクル事業者へ引き渡し再生利用を図った。

なお、駒岡資源選別センターの手選別業務については、知的障がい者に雇用を提供するために福祉団体に業務を委託している。

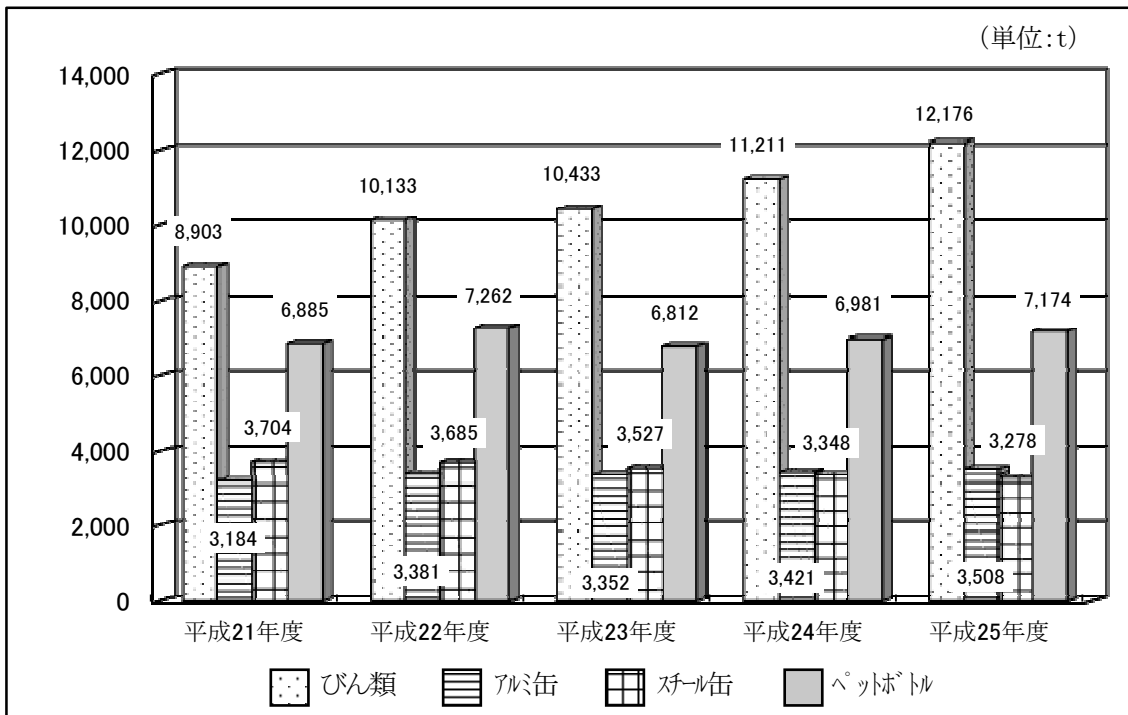
【図3-2 平成25年度 びん・缶・ペットボトル選別センター選別実績フロー図】



《グラフ 3-3 びん・缶・ペット受入量（年度別）》



《グラフ 3-4 資源物搬出量（年度別）》



(3) 施設管理受託事業 (決算額 135,376,561 円)

平成 25 年度は、札幌市の 4 施設の施設管理（総括管理）業務を受託し、同市のごみ処理計画及び運転・運搬計画等に基づき、次の事業を実施した。

① ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (決算額 64,805,008 円)

ごみ資源化工場は、札幌市の処理計画に基づき、主に事業系の木くず、紙くず、廃プラスチックを選別破碎後、圧縮成形して固形燃料（RDF）を生産している。

当社は、ごみ資源化工場の施設運営に係る監督等の総括管理業務及び搬入ごみの計量業務を含む施設の運営全般の管理業務を札幌市からの受託事業として実施した。

また、平成 25 年度からは、家庭系の大型ごみや事業系の建設廃材等を受け入れし、破碎・選別を行っている篠路破碎工場及び破碎工場付帯施設の運営全般の管理業務を札幌市からの受託業務として実施した。

i) ごみ資源化工場処理実績

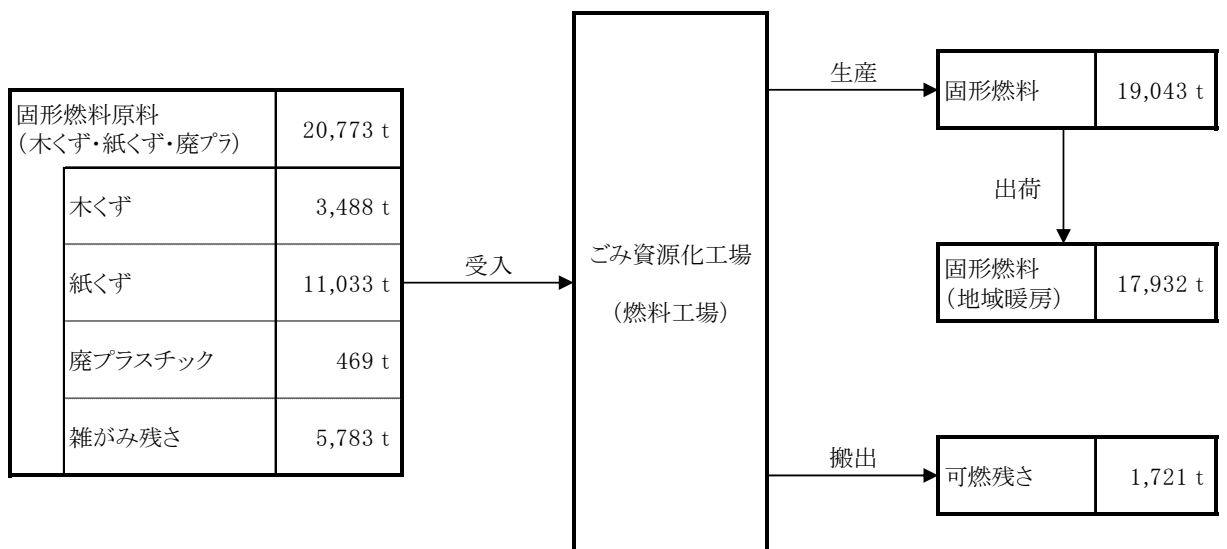
平成 25 年度のごみ受入量は、計画量 19,800t に対し 20,773 t で、前年度 21,256 t に比べ 2.3%の減少となった。受入量の内訳は、木くずが 3,488 t、紙くずが 11,033 t、廃プラスチックが 469 t、雑がみ残さが 5,783 t であった。

固形燃料の出荷量は、計画量 17,300t に対し 17,932 t で、前年度 16,907 t に比べ 6.1%の増加となった。また、生産した固形燃料は、全量を北海道地域暖房㈱に出荷した。

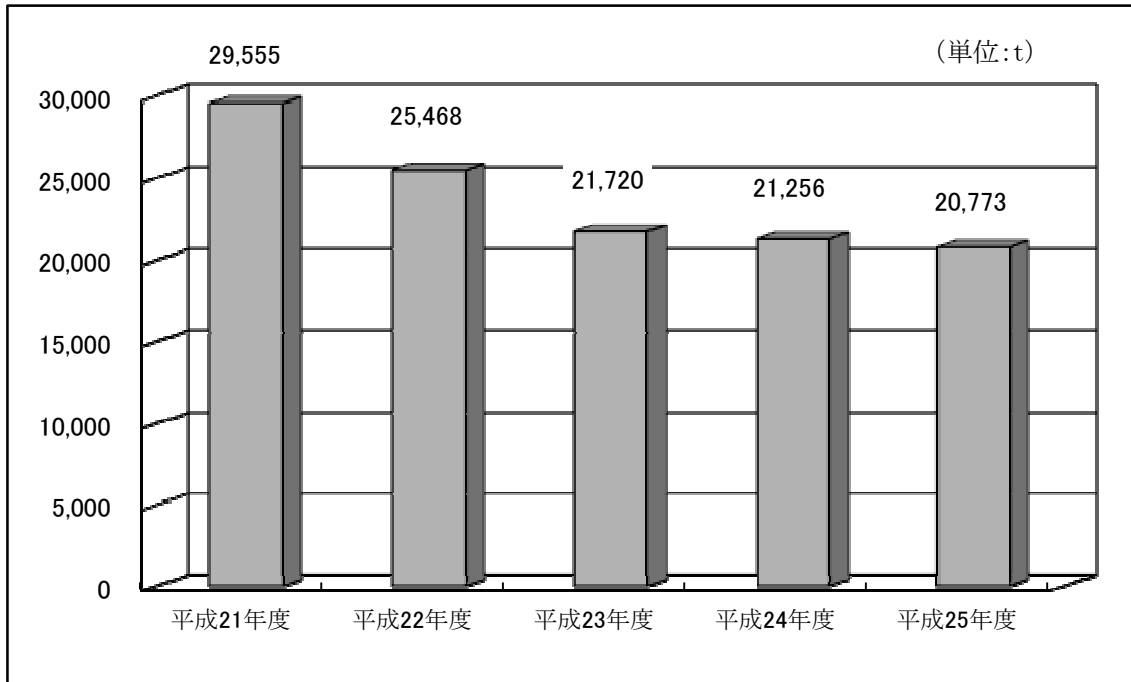
ii) 受入量及び出荷量

ア	ごみ受入	20,773 t	16,653 台	〔 一般廃棄物： 14,963 台 産業廃棄物： 1,690 台 〕
イ	固形燃料出荷	17,932 t	2,039 台	
ウ	残さ搬出	1,721 t	387 台	

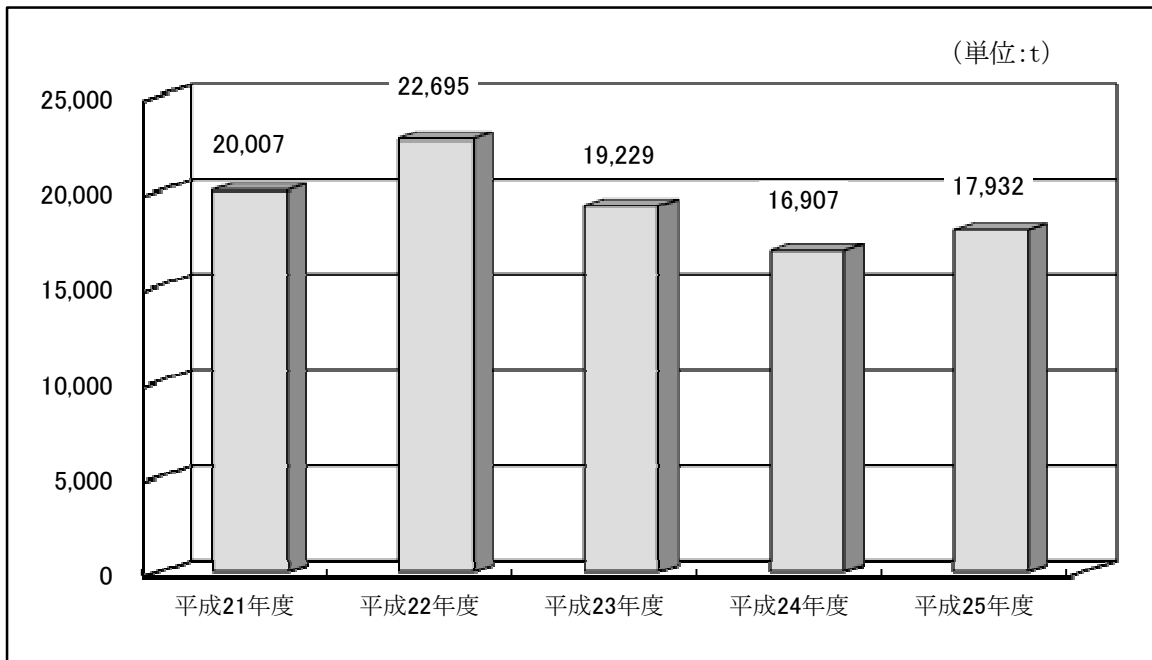
【図 3-3 平成 25 年度 ごみ資源化工場処理実績フロー図】



《グラフ 3-5 ごみ資源化工場受入量（年度別）》



《グラフ 3-6 固形燃料出荷量（年度別）》



iii) 篠路破碎工場 処理実績

平成 25 年度の篠路破碎工場ごみ受入量は、発寒破碎工場の火災復旧整備に伴う受入停止の影響等を受け、計画量 12,100t に対し 14,852 t で、前年度実績 13,070 t に比べ 13.6%の増加となった。受入量の内訳は、大型ごみが5,091 t、燃やせないごみが1,327 t、地域清掃ごみが103 t、許可業者が1,283t、自己搬入ごみが6,646 t、各施設残さが402tであった。

搬出量は16,847t で内訳は、金属(鉄)が1,344t、可燃物が15,503tであった。

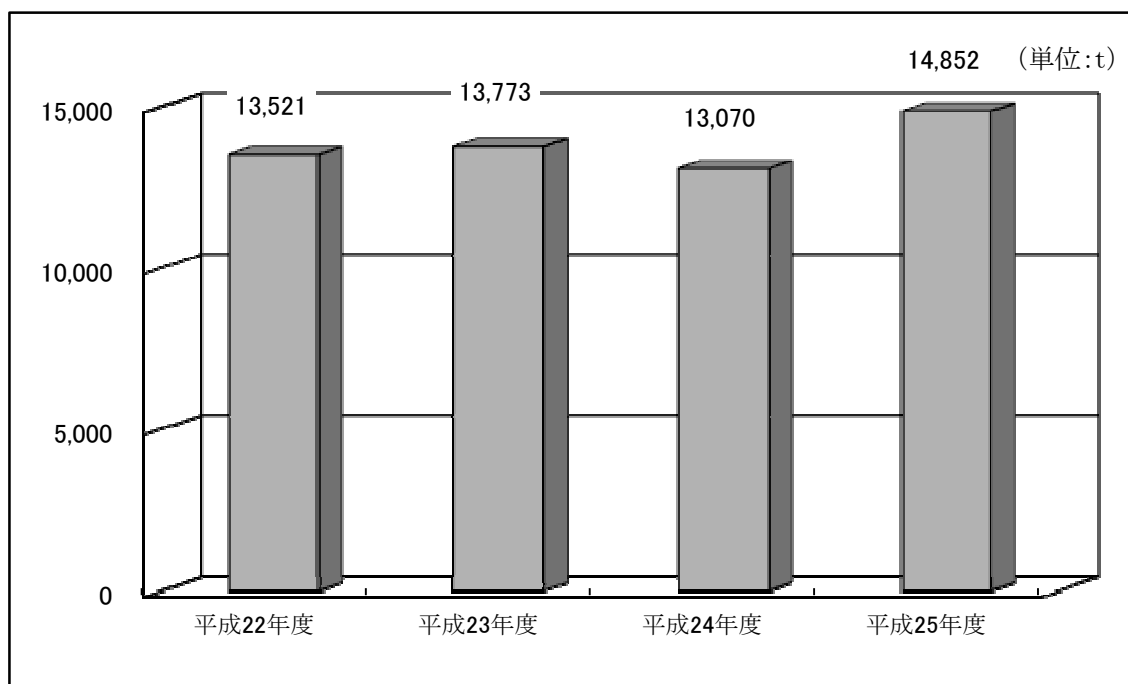
iv) 受入量及び出荷量

ア ごみ受入	14,852 t	28,403 台
イ 金属(鉄)搬出	1,344 t	163 台
ウ 可燃物搬出	15,503 t	3,913 台

【図 3-4 平成 25 年度 篠路破碎工場処理実績フロー図】

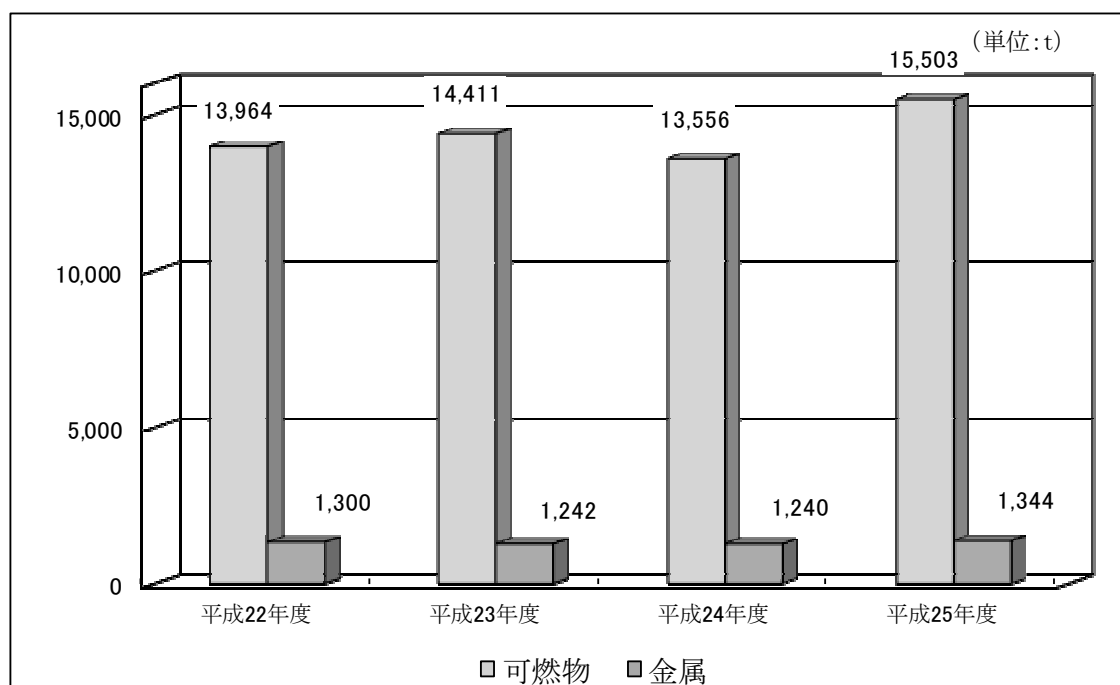


《グラフ 3-7 篠路破碎工場受入量（年度別）》



※ 平成 24 年度までは札幌市による運営管理

《グラフ 3-8 篠路破碎工場搬出量（年度別）》



※ 平成 24 年度までは札幌市による運営管理



② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (決算額 33,121,996 円)

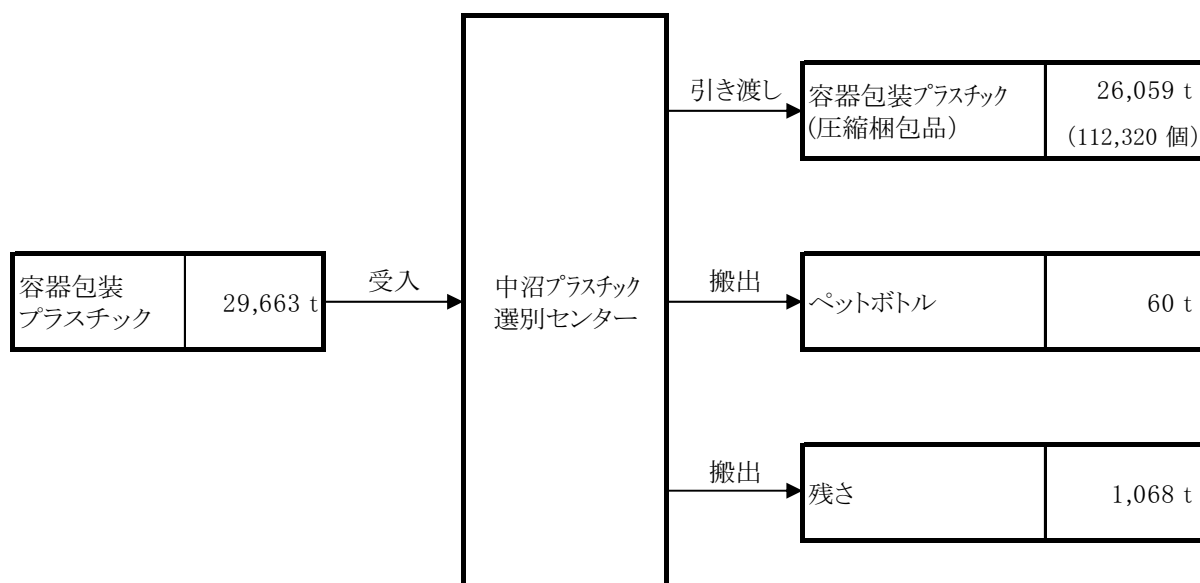
平成20年10月より、札幌市から「中沼プラスチック選別センター施設管理業務」を受託している。

当該業務は、札幌市から別途発注された施設の運転や残さ運搬などに対する監督、選別・圧縮された容器包装プラスチックの品質管理、再商品化事業者等との調整及び引渡し業務が主体となっている。

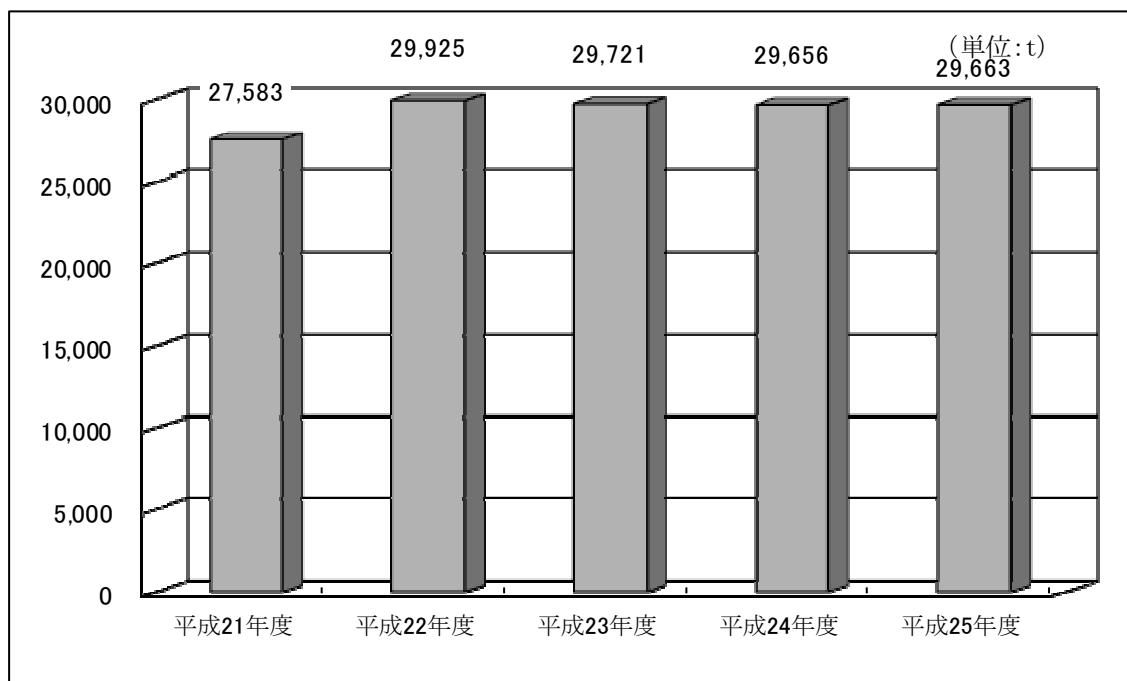
平成25年度の容器包装プラスチック受入量は、計画量29,800 tに対し29,663 tで、前年度29,656 tに比べ0.02%の増加となった。また、選別後に圧縮梱包されて再商品化事業者等に引き渡された分別基準適合物の量は、計画量25,500 tに対し26,059 tで前年度25,526 tに比べ2.1%の増加となった。

また、平成25年度は2,306人の見学者を迎え、施設の見学及びリサイクルの情報提供を通してプラスチックリサイクルの啓発を行った。

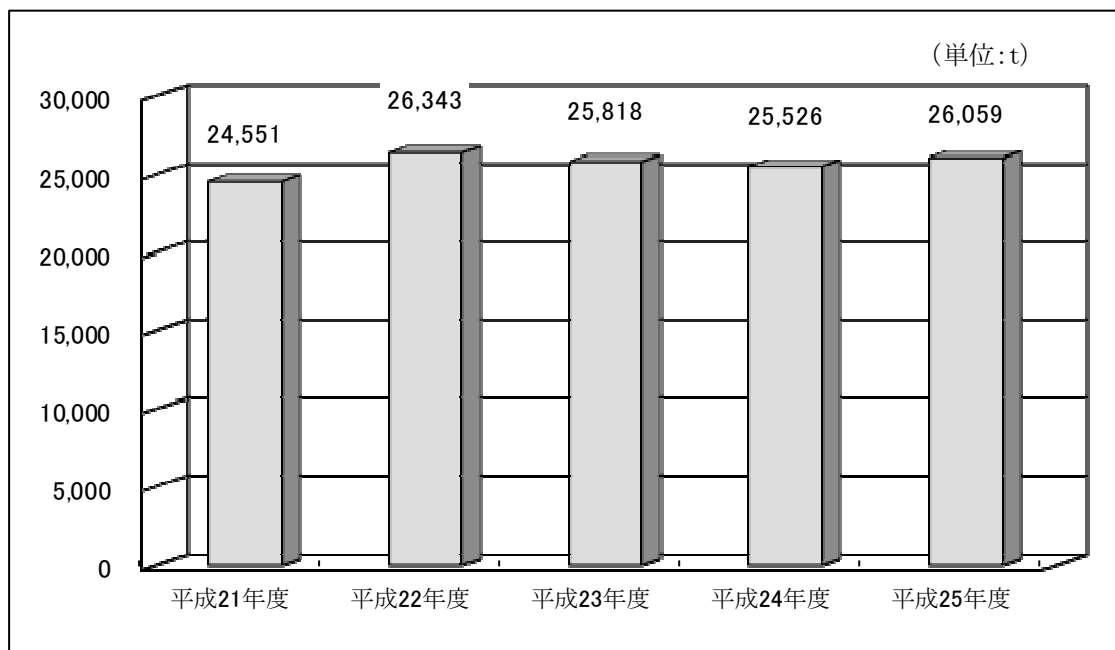
【図3-5 平成25年度 中沼プラスチック選別センター処理実績フロー図】



《グラフ 3-9 容器包装プラスチック受入量（年度別）》



《グラフ 3-10 容器包装プラスチック(圧縮梱包品)搬出量（年度別）》



③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (決算額 15,102,033 円)

平成21年7月より、札幌市から「中沼雑がみ選別センター施設管理業務」を受託している。

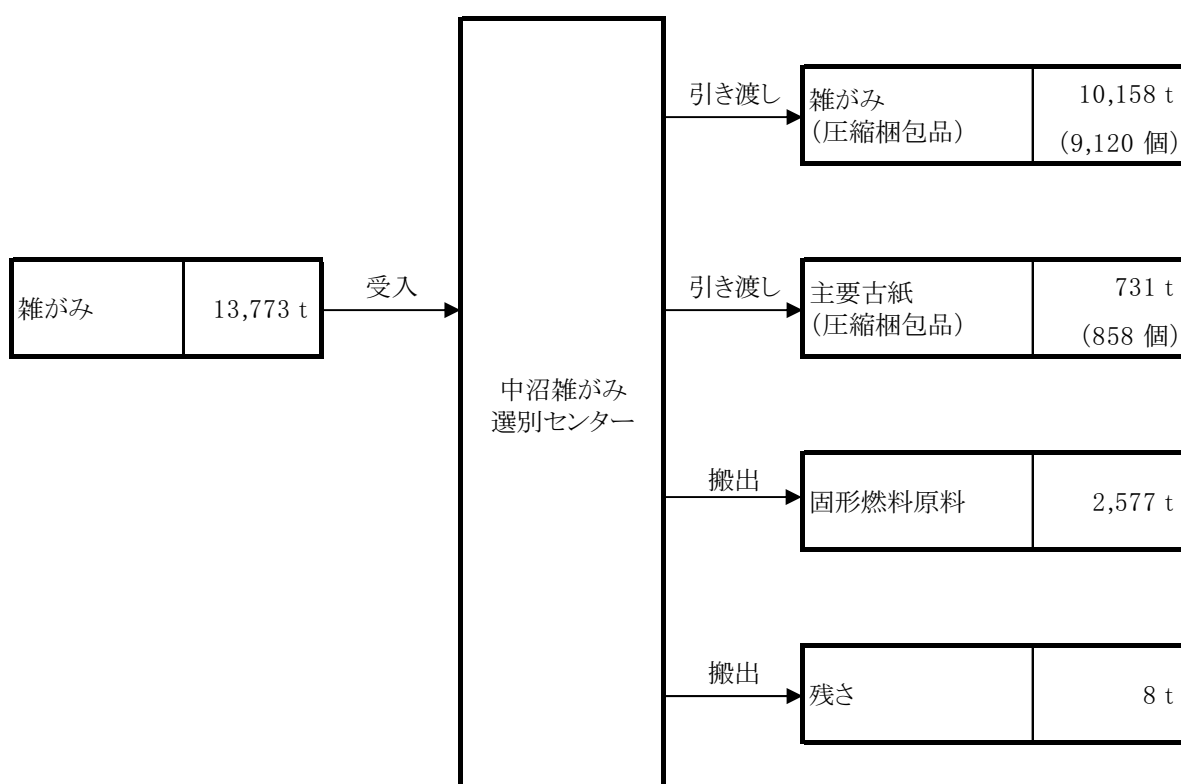
当該業務は、札幌市から別途発注された施設の運転などに対する監督業務、分別基準に適合するよう圧縮・梱包された雑がみと主要古紙の品質管理及びリサイクル事業者等との調整及び引き渡し業務が主体となっている。

なお、不適物を取り除く「手選別業務」については、知的障がい者の雇用を促進するために札幌市が福祉団体に業務を委託している。

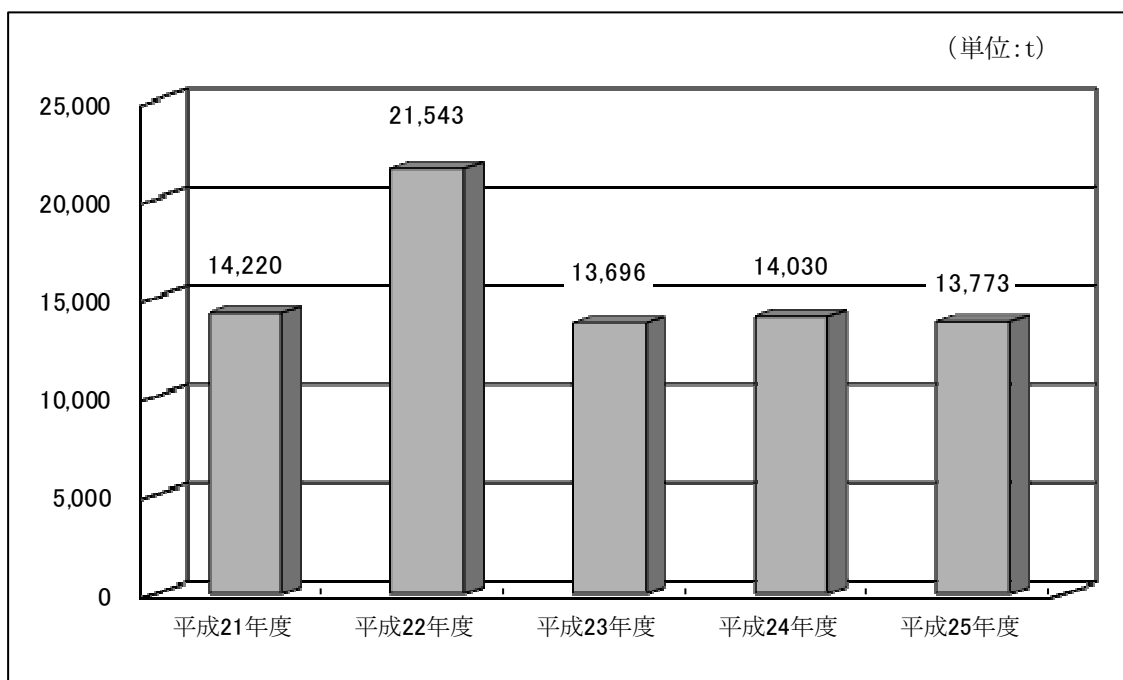
平成25年度の雑がみ受入量は、計画量14,580 tに対し13,773 tで、前年度14,030 tに比べ1.8%の減少となった。

また、選別後に圧縮梱包されてリサイクル事業者に引き渡された雑がみは、計画量10,490 tに対し10,158 tで、前年度9,954 tに比べ2.0%の増加、また主要古紙は、計画量909 tに対し731 tで、前年度881 tに比べ17.0%の減少となった。

【図3-6 平成25年度 中沼雑がみ選別センター処理実績フロー図】

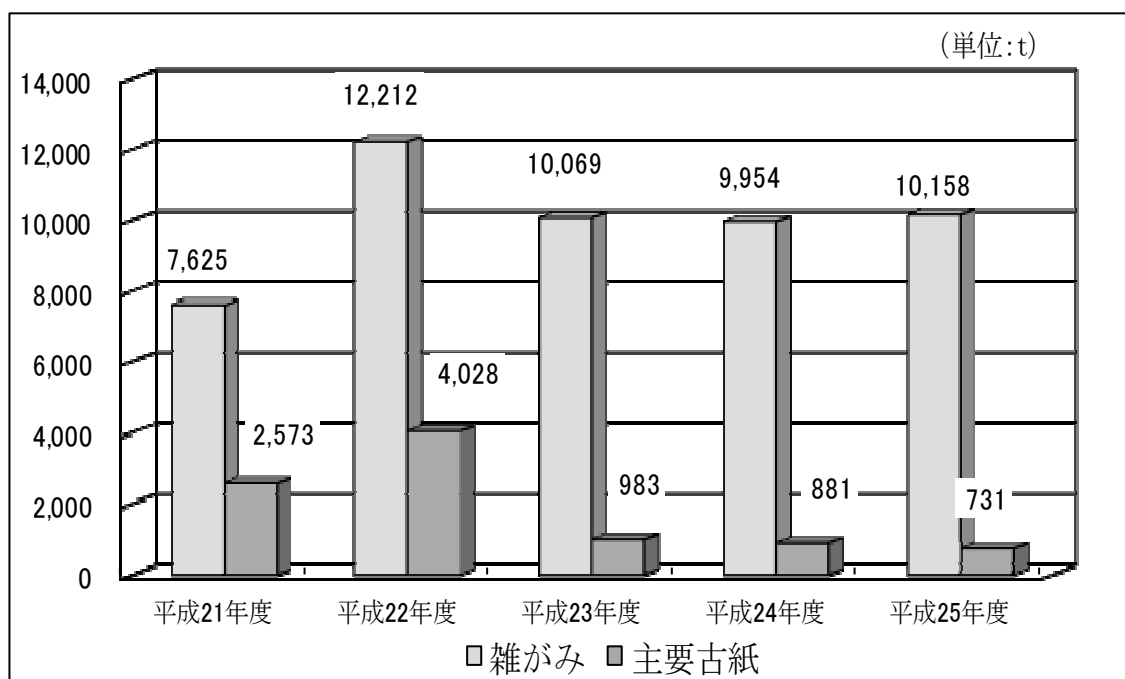


《グラフ 3-11 雑がみ受入量（年度別）》



※ 平成21年度は、7～3月までの受入量

《グラフ 3-12 雑がみ等搬出量（年度別）》



※ 平成21年度は、7月～3月までの搬出量

④ 札幌市リサイクル団地管理事業 (決算額 22,347,524 円)

平成20年10月より、札幌市から「札幌市リサイクル団地管理業務」を受託している。

札幌市リサイクル団地は、廃棄物の減量・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群で、団地の基盤整備については、札幌市が平成6年から平成8年にかけて行い、処理施設の建設・運営は、民間処理業者、第三セクター及び札幌市の3事業主体がそれぞれ行っている。

現在、約23haの団地内に、民間処理業者6社、当公社、及び札幌市の9施設が稼働している。

i) 業務内容

- ア リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
- イ リサイクル資料館・ふれあいホールの維持管理業務
- ウ 井水供給設備の維持管理業務
- エ リサイクル団地内市道の点検、清掃、除排雪業務
- オ リサイクル団地協議会の開催
- カ その他管理業務

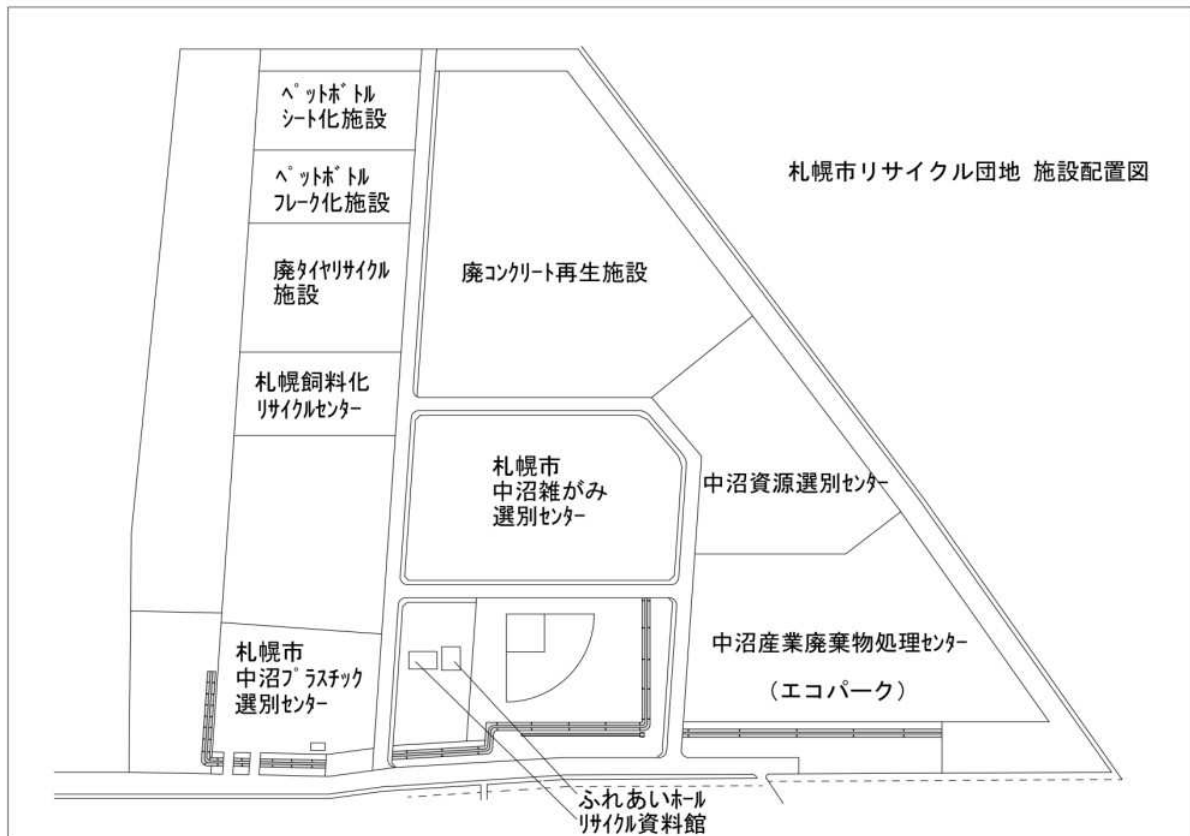
ii) 見学実績

平成25年度のリサイクル団地の見学実績は、件数96件、見学者数3,478人であった。

【表3-1 平成25年度 リサイクル団地見学実績】

	件数	見学者数
4月	3件	75人
5月	6件	113人
6月	12件	650人
7月	20件	945人
8月	8件	235人
9月	17件	715人
10月	14件	449人
11月	9件	238人
12月	3件	20人
1月	0件	0人
2月	2件	28人
3月	2件	10人
合計	96件	3,478人

【図3-7 札幌市リサイクル団地 施設配置図】



(4) 大型ごみ収集センター管理運営事業 (決算額 19,211,587円)

札幌市の大型ごみは、平成9年10月からそれまでのステーション方式から電話申込による戸別収集となり、平成10年1月からは有料制が導入された。

当社は、平成11年4月から大型ごみ収集センターの管理運営業務を札幌市より受託し実施している。

① 業務内容

大型ごみ、リサイクル品の収集受付及び収集作業を円滑実施するための総括調整

- i) 札幌市及び電話受付業務受託者との連絡調整
- ii) 収集車両台数の調整、未収集物に係る連絡調整
- iii) 電話受付業務受託者が回答困難な苦情・問い合わせ等への対応

② 平成25年度実績

- i) 収 集 量                    12,213 t    (計画量: 11,100 t)
- ii) 受付件数                507,981件    (計画量: 472,000件)
- iii) 収集件数               334,435件    (計画量: 321,000件)
- iv) 収集個数                845,192個    (計画量: 777,000個)

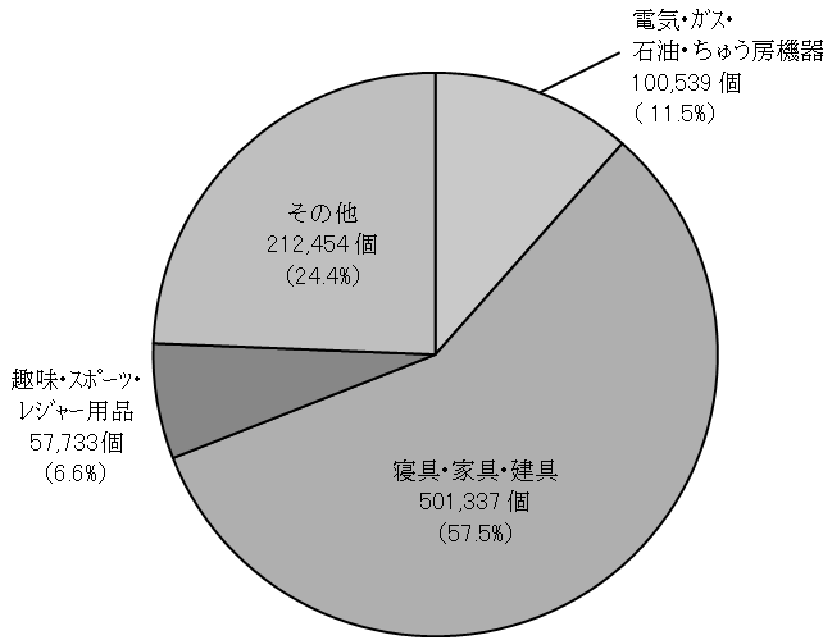
【表3-2 平成25年度 業務実績】

	収集量(t)	受付件数	収集件数	収集個数
4月	1,152	52,039	31,824	81,124
5月	1,289	47,781	35,647	91,862
6月	1,028	45,797	30,051	75,961
7月	1,120	47,642	31,803	79,163
8月	1,092	42,789	29,468	75,348
9月	1,053	47,128	27,974	72,008
10月	1,320	50,367	35,418	91,452
11月	1,159	45,204	31,221	80,789
12月	954	38,580	27,892	65,395
1月	507	22,371	14,783	32,072
2月	541	22,421	13,205	33,802
3月	998	45,862	25,149	66,216
合計	12,213	507,981	334,435	845,192

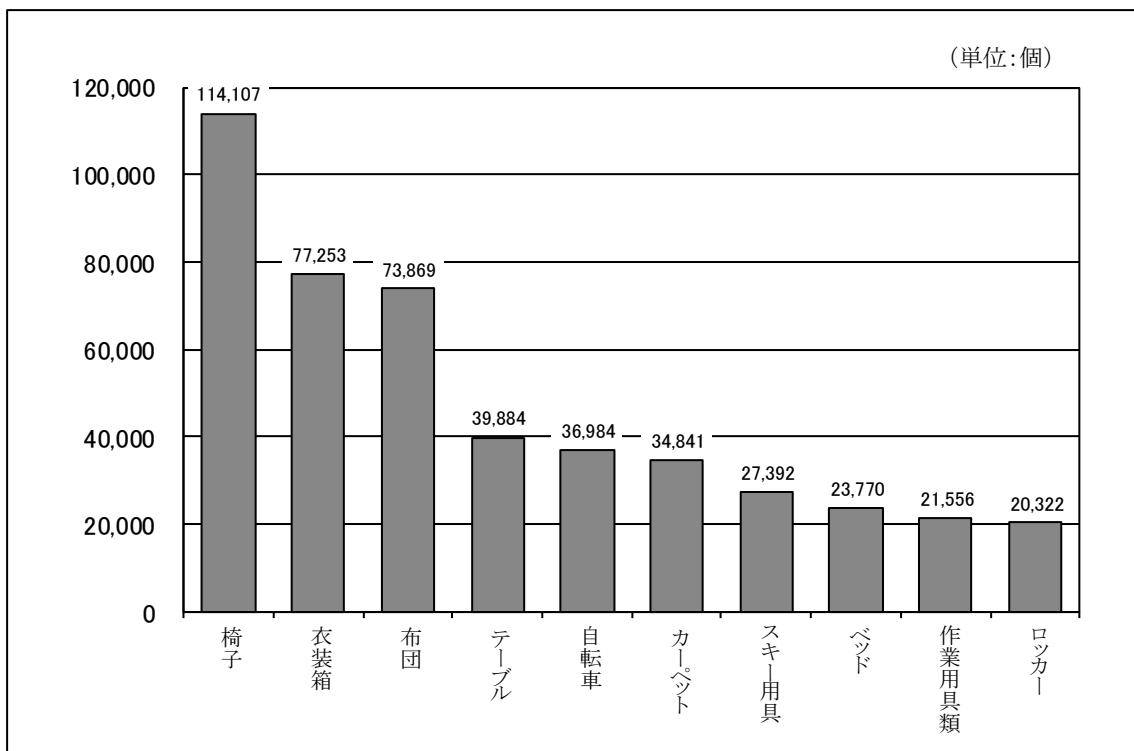
【表3-3 受付個数(上位10品目)】

順位	品 目	個 数	割 合
1	椅子	114,107	13.1%
2	衣装箱	77,253	8.9%
3	布団	73,869	8.5%
4	テーブル	39,884	4.6%
5	自転車	36,984	4.2%
6	カーペット	34,841	4.0%
7	スキー用具	27,392	3.1%
8	ベッド	23,770	2.7%
9	作業用具類	21,556	2.5%
10	ロッカー	20,322	2.3%

《グラフ 3-13 受付個数大分類内訳》



《グラフ 3-14 受付個数（上位 10 品目）》





## 4 事業系ごみ収集運搬事業 (決算額 5,963,084,297円)

札幌市のごみ処理手数料が平成25年1月に改定(値上げ)されたことを受け、平成25年4月から当公社においても、収集運搬料金の改定を行った。この影響により、ごみ収集量は減少を見込んでいたが、収集運搬事業の収入の基礎となる体積ベースのごみ収集量は、前年度比において0.3%の減少に留まった。一方、処分手数料支払いの基礎となる重量ベースのごみ収集量では、前年度比において1.0%増加しており、ここ3年間、下げ止まりの傾向を示している。

また、収集作業の効率化に取り組んでいるが、収集量が減少している資源化ごみについて、一部の地域や曜日で2台減車したほか、定期収集に行ってもごみが出ていない、いわゆる「空振り」の解消を進めるため、平成25年7月から定期収集から電話申込みへの変更や収集回数の削減などについて事業者との折衝を進め、一日当たり1台分に相当する約160件が削減された。

平成25年度末現在の伝票収集による契約件数は9,920件、プリペイド袋収集による契約件数は21,841件となっている。

### (1) ごみ収集量について

① 総収集量体積ベースでは1,050,962 m<sup>3</sup>と前年度実績1,054,457 m<sup>3</sup>に比較して0.3%の減少、重量ベースで171,508 tと前年度169,849 tに比較し1.0%の増加となった。

② 廃棄ごみ収集量(可燃用プリペイド袋等を含む一般ごみ)

822,018 m<sup>3</sup>と前年度の811,483 m<sup>3</sup>に比較して1.3%の増加となった。

③ リサイクルごみ収集量

i) 資源化ごみ(木くず、紙くず、廃プラスチック類)

固形燃料(RDF)の燃料としてごみ資源化工場に搬入した。

収集量は129,485 m<sup>3</sup>と前年度139,990 m<sup>3</sup>に比較し7.5%の減少となった。

ii) 生ごみ

飼料化リサイクルセンター、南区定山溪及び石狩市の生ごみリサイクル施設へ搬入し、飼料や堆肥の原料としてリサイクルが行われた。

また、札幌市教育委員会の「さっぽろ学校給食フードリサイクル」への協力のため、昨年引き続き市内298校の小中学校で生ごみの分別収集を実施した。

収集量は53,271 m<sup>3</sup>と前年度56,736 m<sup>3</sup>に比較し6.1%の減少となった。

iii) 不燃用プリペイド袋の選別(少量排出事業所)

不燃用プリペイド袋に混入している、びん・缶・ペットボトル等の再生可能な資源物をリサイクルするため、篠路資源化センターへ搬入した。

収集量は26,817 m<sup>3</sup>と前年度26,237 m<sup>3</sup>に比較し2.2%の増加となった。

iv) 剪定枝

剪定枝、幹、根などの樹木を篠路資源化センター内にある処理施設へ搬入し、堆肥、畜舎の敷きわら及び燃料チップにリサイクルが行われた。

収集量は1,784 m<sup>3</sup>と前年度969 m<sup>3</sup>に比較し84.1%の増加となった。

v) びん・缶・ペットボトル

中沼資源選別センター及び駒岡資源選別センターに搬入した。

収集量は17,587 m<sup>3</sup>と前年度19,042 m<sup>3</sup>に比較し7.6%の減少となった。

④ 家庭用パソコンのリサイクルは、パソコン本体等147台、ブラウン管ディスプレイ等48台の合計195台と前年度220台に比較し11.4%の減少となった。

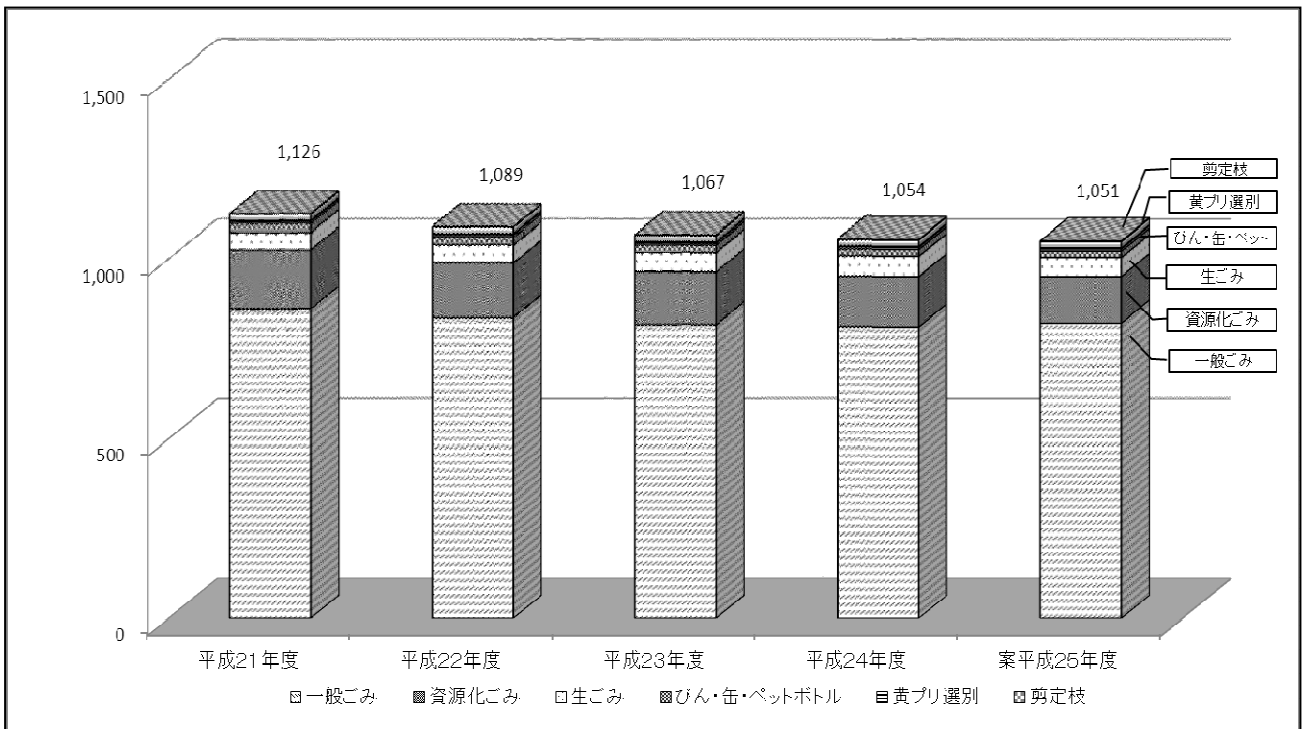
【表 4-1 平成 25 年度 収集量(体積)】

(単位: m<sup>3</sup>)

項目 月	総量 (体積)	内 訳					
		廃棄ごみ		リサイクルごみ			
		一般ごみ	資源化ごみ	生ごみ	不燃用 プリペイド袋	剪定枝	びん・缶 ペットボトル
4月	89,550	68,968	12,075	4,604	2,410	7	1,486
5月	89,320	69,342	11,123	4,932	2,261	210	1,452
6月	85,664	66,480	10,580	4,678	2,138	331	1,457
7月	93,749	72,663	11,285	4,970	2,556	480	1,795
8月	89,003	70,526	9,593	4,795	2,329	60	1,700
9月	86,176	67,811	10,089	4,484	2,161	96	1,535
10月	90,445	70,324	11,306	4,546	2,429	345	1,495
11月	88,186	69,489	10,821	4,254	2,089	185	1,348
12月	92,950	72,846	11,828	4,315	2,368	70	1,523
1月	80,189	63,782	9,421	3,717	2,048	0	1,221
2月	77,780	61,106	9,651	3,905	1,892	0	1,226
3月	87,950	68,681	11,713	4,071	2,136	0	1,349
合計	1,050,962	822,018	129,485	53,271	26,817	1,784	17,587
平均	87,580	68,502	10,790	4,439	2,235	149	1,466

《グラフ 4-1 収集量 (容積) の推移》

(単位: 千m<sup>3</sup>)



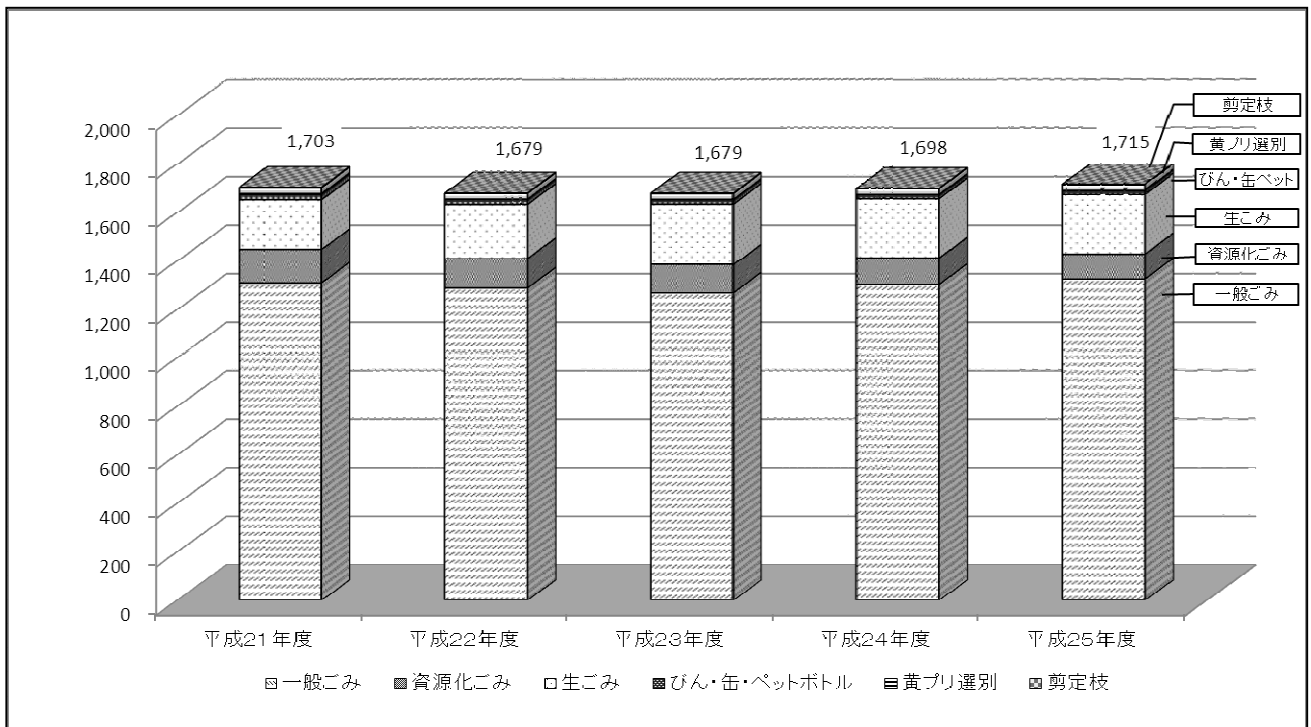
【表4-2 平成25年度 収集量(重量)】

(単位:t)

項目 月	総量 (重量)	内 訳					
		廃棄ごみ		リサイクルごみ			
		一般ごみ	資源化ごみ	生ごみ	不燃用 フリペ袋	剪定枝	びん・缶 ペットボトル
4月	14,403	10,827	1,034	2,186	232	0	124
5月	14,469	10,986	880	2,260	213	13	117
6月	14,035	10,714	823	2,181	191	15	111
7月	15,253	11,850	867	2,124	220	54	138
8月	14,927	11,605	768	2,221	198	4	131
9月	14,196	11,051	765	2,062	190	5	123
10月	14,559	11,148	863	2,195	215	14	124
11月	14,113	11,005	820	1,966	189	16	117
12月	15,222	11,802	969	2,063	227	10	151
1月	13,338	10,740	777	1,506	194	0	121
2月	12,708	9,774	766	1,872	177	0	119
3月	14,285	11,010	1,017	1,939	195	0	124
合計	171,508	132,512	10,349	24,575	2,441	131	1,500
平均	14,292	11,043	862	2,048	203	11	125

《グラフ 4-2 収集量 (重量) の推移》

(単位: 百 t)



(2) 事業者管理システムの再構築

収集運搬事業に係る「事業者管理システム」の老朽化に伴う不具合が続いていることから、年度末に新システムの導入に向けたコンサル業務を委託契約しスタートした。

(3) ごみ重量計量システムの実証実験

「重量計量システム」を搭載した収集車両2車種7台により、排出事業者単位に重量データの蓄積を継続して実施している。

(4) プリペイド袋の販売

少量排出事業所向けに、プリペイド方式のごみ袋を販売している。

平成25年度の販売数は、348,197セットと前年度実績の417,663セットに比較して16.6%減少した。これは平成25年4月からのごみ処理料金の改定に伴う先買いの影響によるものと思われる。

【表4-3 平成25年度 プリペイド袋販売実績】

(単位:セット)

販 売 店	販売数(セット)	備 考
市 民 生 協	29,500	2 6 店 舗
セ イ コ ー マ ー ト	178,970	3 0 5 店 舗
す ず ら ん 物 産	63,070	—
市 庁 舎 販 売 店 等	4,526	1 2 店 舗
商 店 街 組 合 等	5,760	6 団 体
宅 配	60,540	佐 川 急 便
公 社 直 販	5,831	営 業 社 員 持 参 等
計	348,197	

【表4-4 年度別 種類別プリペイド袋販売実績】

(単位:セット)

年度	20㍓		40㍓		総販売数
	可燃	可燃	不燃		
平成25年度	11,664	267,609	68,924		348,197
平成24年度	13,313	320,651	83,699		417,663
平成23年度	10,721	276,166	68,170		355,057
平成22年度	9,477	265,960	65,068		340,505
平成21年度	7,809	215,779	56,929		280,517
平成20年度	8,457	337,878	91,682		438,017

<附属明細書について>

平成25年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。